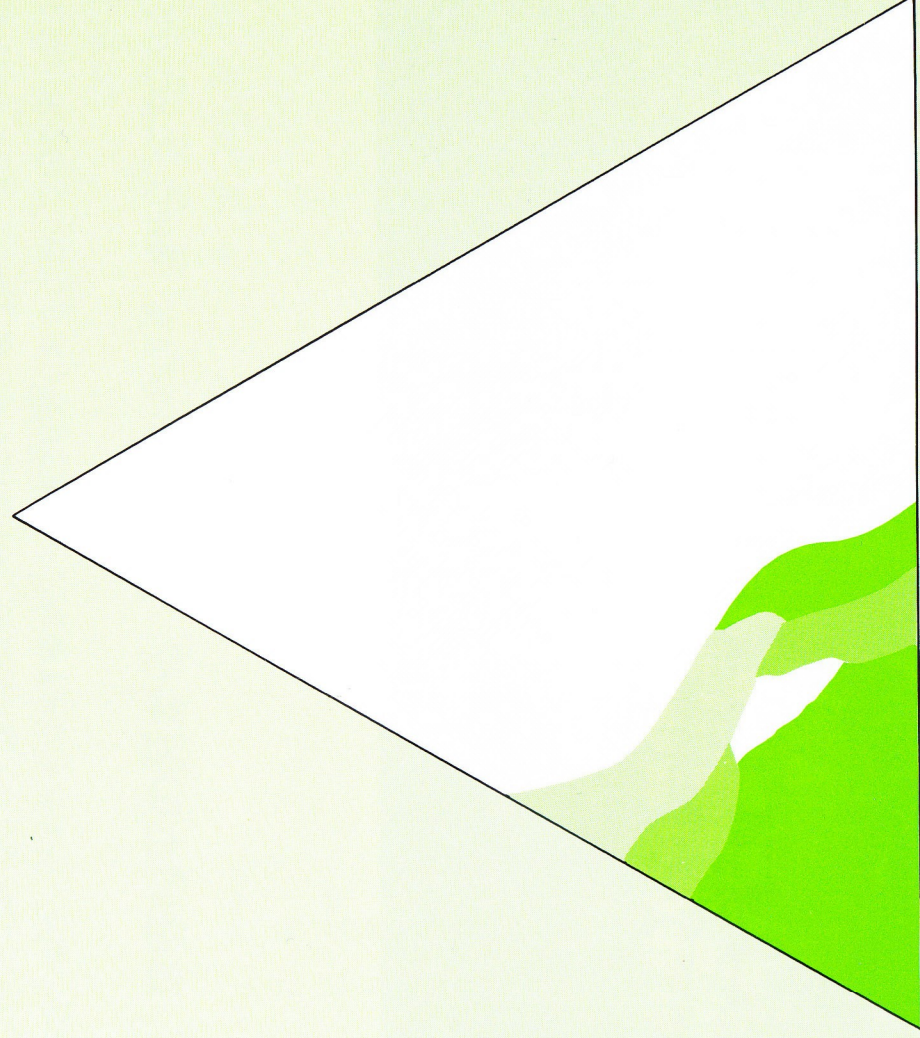


# 小田原男声合唱团

## 78th Regular Concert



1989.7.16(日) PM3:00 開演

小田原市民会館

# 皆様、ご来場ありがとうございました

小田原男声合唱団

代表者 日下部 陽

今回を迎えて第18回目の定期演奏会となります。例年7月の第1または第2土曜日夕方開演としてきましたが、今年は珍しく会場確保がむずかしく、今日のこの時刻となりました。平均年齢が40歳代半ばのわが団にも、ごらんのように若いメンバーが散見できるのは、まだまだ情熱に燃える余地が多い証拠でしょう。渡辺決己先生に導かれた一年間の練習の成果を皆様のお耳にお届け致します。とりわけ今回は畑中良輔先生の客演指揮によって二つのステージを演奏いたします。合唱音楽のみでなく、声楽の裏表を知り尽くしているしやる畑中先生の指揮は、私共はもちろん、皆様方もきつとお楽しみ多いこととぞんじます。

来年秋には日本男声合唱協会（JAMCA）の第10回大会が、小田原男声合唱団の当番で当地で行なわれますし、二年後にはオダダンの青春を迎えます。みなさまのご高評によって励みますので、どうかますますご声援、ご来場下さいますよう、お願い致します。

では、どうぞがごゆつくりお楽しみ下さいませように。



# プログラム

## 1. TOSTI 名曲集から

F. P. Tosti 作曲  
福永陽一郎 編曲

- I. L'ultima Canzone (最後の歌)
- II. Sogno (夢)
- III. La Serenata (セレナータ)
- IV. Marechiaro (マレキアーレ)
- V. Ideale (理想の女)
- VI. Addio (さらば!)

## 2. SCHBERT の男声合唱曲集から

- I. Got meine Zuversicht (神、わが頼み 詩篇第23篇) 作品132
- II. Standchen (セレナーダ) 作品135
- III. Nachtgesang im Walde (森の夜の歌)

## 3. 草野心平の詩から

草野心平 作詞  
多田武彦 作曲

- I. 石家荘
- II. 天
- III. 金魚
- IV. 雨
- V. さくら散る

## 4. 日本の四季

- |            |                        |          |
|------------|------------------------|----------|
| I. 早春賦     | 吉丸一昌 作詞                | 中田章 作曲   |
| II. 牧場の朝   | 文部省唱歌                  | 船橋栄吉 作曲  |
| III. 夏は来ぬ  | 佐々木信綱 作詞               | 小福山之助 作曲 |
| IV. 夏の思い出  | 江間章子 作詞                | 福永陽一郎 編曲 |
| V. 赤とんぼ    | 三木露風 作詞                | 中山福直 作曲  |
| VI. 荒城の月   | 土井晩翠 作詞                | 福永祥彦 編曲  |
| VII. 里の秋   | 斉藤信夫 作詞                | 滝荒太郎 作曲  |
| VIII. 冬の夜  | 文部省唱歌                  | 谷沼永 編曲   |
| IX. 雪のふるまを | 内村直也 作詞                | 福海実 作曲   |
| X. 箱根八里    | 鳥井 帆 <sup>まこと</sup> 作詞 | 福永陽一郎 編曲 |
|            |                        | 滝廉太郎 作曲  |

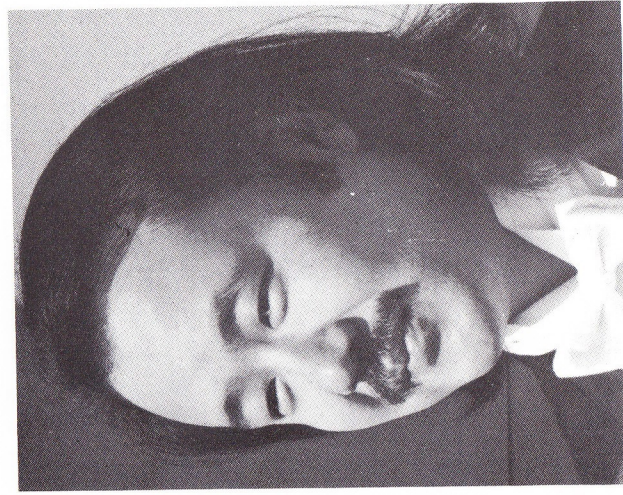
## 指揮者紹介

### ■ 畑 中 良 輔



東京音楽学校卒業。宮廷歌手ヘルマン・ヴァーハーペニヒ博士に師事。リリックな声を持ち、その音楽的解釈力の深さと卓越した演技力は、デビュー当時より高い評価を受けて来た。特にオペラではモーツァルト歌手として第一線に立ち、「魔笛」のパパゲーノ「フィガロの結婚」のフィガロをはじめ、モーツァルトのオペラ本邦初演の主役のすべてをつとめた。イタリア・フランスオペラでは、世界の名歌手、タリアヴェーニと「ボエーム」、「ウエルテル」、ゲルハルト・ヒツシュと「ドン・ジョヴァンニ」などを共演し、オペラ上演史に輝やかしい記録を残した。歌曲ではドイツ・日本歌曲に造詣深く、特に日本歌曲のプログラムで全国縦断連続リサイタルを行い、啓蒙の役割を果たしたことは特筆に値する。又作曲の面では抒情的な歌曲作品が多く、「畑中良輔歌曲集」が全音楽譜より出版されている。評論の面では25年にわたり朝日新聞の音楽評を書き続け、「演奏家の演奏論」演奏の風景「朝日試聴室」などの著書がある。また教育者としては弟子の多くのすぐれた声楽家が日本はもとより、ヨーロッパでも第一線の歌手としてオペラ歌曲に活躍している。日本演奏連盟常任理事、全日本合唱教育研究会会長、日本音楽コンクール運営委員をはじめ、多くの役職をつとめ、文部省の教育課程審議会の重責をも担っている。東京芸術大学名誉教授、昭和60年紫綬褒章受賞。

### ■ 渡 邊 決 己



幼時よりヴァイオリンを三浦二郎、鷲見三郎、日比野愛次各氏に師事し、小学四年生で東北地区器楽コンクール入賞。ピアノを田村宏、清水玲子各氏に、桐朋学園音楽科指揮聴講クラスにて、故斉藤秀雄氏に指揮法を、国立音大夏期講習等で作曲を島岡謙、中村太郎各氏に、東京芸大にて、三石精一、金子登各氏に指揮を、管弦楽法を佐藤真氏に、声楽を伊藤巨行氏に師事、芸大卒業後、財団法人神奈川フィルハーモニー管弦楽団に所属し、ボニー・ジャックス等と神奈川県民ホールでデビューするかたわら、NHK交響楽団で指揮研究を行い、韭崎での音楽教室でN響を振る、又、東京室内歌劇場主催の数々のオペラの指揮を行い好評を博す。また、指揮のかたわら坂東玉三郎・真田広之の指導や、「シックス・コーナーズ」バンドリーダー、ホリプロダクションミュージカル声楽監督及び指揮者、KMG音楽事務所主宰と多方面に活躍、尚昭和61年度より、藤沢市社会教育委員として藤沢市の文化に参画している。小田男とは、62年8月以来のおつきあいである。

# 出演者紹介

## ■メゾ・ソプラノ 志村 年子

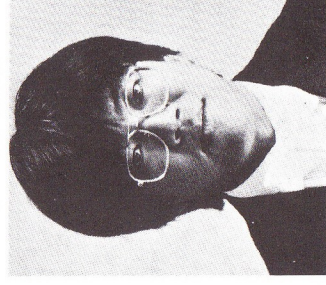


桐朋学園大学卒業。畑中更予、畑中良輔に師事。

西独 フランクフルト国立音楽大学に留学。ゲルトルーデピッツンガーに師事。演奏家試験（コンサートエグザメン）に合格「最優秀賞」を得て卒業。ドイツ各地で演奏する。二期会の「ホフマン物語」の母の声でオペラにデビュー以後「ワルキューレ」「さまよえるオランダ人」「ヘンゼルとグレーテル」「魔笛」などに出演。オペラ界での活躍に対して、第5回ウインナーワールドオペラ賞を受賞する。その後、「ウインガーの陽気な女房たち」「コシ ファン トウツテ」「ファルスタフ」「ジークフリート」「セビリアの理髪師」「ジャンニス キツキ「ちゃんちき」」などで活躍、コンサートの分野でも、1970年のデビューリサイタルにつづき、71年・74年・78年・82年・85年・88年と行い、コンサート シンガーとしても高く評価されている。諸交響楽団との共演では、第九、メサイアレクイエム、受難曲、スタバートマテル、アルトラソディー、亡き子をしのぶ歌、等数多くの古典から現代に至る作品の優れた演奏で我が国の代表的アルトとして活躍している。

## ■ピアノ 青木 雅也

桐朋学園大学ピアノ科卒業。その後2年間、研究生として同大学指揮科に学ぶ。その間、ピアノを兼松雅子、鶴園紫磯子、指揮を紙谷一衛他に師事。伴奏ピアニストとして数多くの演奏家、演奏団体と協演の他、作・編曲、指揮等、幅広く活躍している。



## ■梅田 學



1964年国立音大入学  
和方寛茂、千葉馨の  
両氏に師事。  
1967年在学中に東京  
交響楽団に入団  
1968年国立音大卒業  
1974年文化庁在外研  
修生として西ドイツ  
ケルン音大に留学。  
ホルンをエーリヒ・

パンツェル氏に室内楽をスチーブンス氏に師事  
1976年帰国、東京交響楽団に復団  
現在、東京交響楽団首席ホルン奏者  
広島工リザベト音楽大学講師

## 小田原ホルン倶楽部



1984年に小田原フィルのメンバーを中心に結成された神奈川県でも数少ないホルンアンサンブル集団。N響ホルン奏者の樋口哲生氏の指導の下、今年1月には東京カザルスホールでの出演を果たした。現在メンバーは10数名。

### 当日の出演予定者

- 石 井 博 (いしい ひろし) ●長谷川 清 (はせがわ きよし)
- 高 橋 茂 (たかはしげる) ●穂田 智 範 (ほだ ともゆり)

# 曲目解説

## 1. TOSTI名曲集から

Francesco Paolo Tosti は、1846年イタリア東海岸オルトナで生まれた歌曲作曲家です。ナポリ音楽院で作曲家メルガダンテに学んで同校の教鞭を取るから歌曲を作曲しました。ローマに出て作曲家ズガンバーティの知遇を受け、ザヴォイ公女マルゲリータ(後イタリア皇后)の音楽教師に推薦され、1875年ロンドンを訪れて成り、80年からイギリス王室の音楽教師としてロンドンに定住しました。94年からロンドン王立音楽院教授となり、1908年ナイト叙爵、多くの旋律的魅力に富む名歌曲を作って名を成し、16年帰省中ローマで死去しました。

今回歌うものは第8回定期演奏会で福永陽一郎先生が男声合唱用に編曲初演したものの再演です。

以下の小曲ごとの解説は、当日のプログラムの為に福永先生が書かれたものです。

### I. L'ultima Canzone (最後の歌)

この曲は「甲斐なきセレナーデ」の一種である。「自分が想いをかけていた二人は、明日お嫁にいきます。もう一度、最後のセレナータをさいておくれ」とうたうこのメロディーは、いかにも南欧の情緒に溢れている。

### II. Sogno (夢)

トスティのあまたある歌曲の中で、もつともすぐれたものという定評がある。シューマンの歌曲「夜ごとの夢」に似た情感がある。旋律と和音の微妙な結びつきが実に美しい。

### III. La Serenata (セレナータ)

昔からトスティのセレナーデとして有名。世界中の名歌手によって歌われてきた。軽やかな旋律の飛翔が生命だけに、歌唱は決して安易ではない。

### IV. Marechiaro (マレキアーレ)

ナポリのカンツォーネがそのまま芸術歌曲になったような、耳もとでマントリンでもきこえてきそうなセレナータである。原詩はナポリ語だが、本夕はパリアーラが標準イタリア語になおしたテギストでうたわれる。ナポリ方言は、発音がむづかしく、日本人には真似できないと思われる。

### V. Ideale (理想の女)

戦前から、スキー・パ・ジュー・リ・ビヨルリンクのテノールの愛唱歌として、広く知られた名曲である。甘美な恋の想いが、わびしい一人ぼっちの部屋の中にあふれる時、去って行った理想のひとに『帰ってきておくれ』と叫ばずにはいられない、情熱のかたまり！

### VI. Addio (さらば！)

もともと英語の歌詞に作曲されたもので、原題は「Good Bye!」という。コーダでGood bye forever! Good bye, Good bye. Good bye! Good bye! とくり返されるところは素晴らしい感情のたかまりをみせるのだが、今夕は統一をはかってリッツエツァイのイタリヤ語訳でうたう。

## 2. SCHBERTの男声合唱集から

シューベルトの男声合唱曲は、身近にあった合唱団や仲間たちのために書かれました。

もともとウィーンの宮廷少年合唱団の出身であったシューベルトは、作曲活動の初期からこのジャンル作曲をし、生涯に100曲近い作品を残しています。本日はその中から三曲歌います。

### I. Got meine Zuversicht (神、わが頼み詩篇第23篇) 作品132

高名な18世紀の哲学者モーゼス・メンデルスゾーン(メンデルスゾーンの祖父)訳詩によるもので元は、ソプラノ2、アルト2にピアノ伴奏の曲である。1820年12月作曲。ウィーンの歌手で声楽教師アンナ・フレリーヒの弟子たちのために書かれたもの。アダージョ、変イ長調、2分の2拍子。

### II. Standchen (セレナーデ) 作品135

フランツ・グリルパルツァーの詩によるもので、1827年7月に作曲。アルト独唱に対して合唱が反復するエコーないし応酬のかたまりとされている。アンダンテ、ヘ長調、4分の4拍子。

### III. Nachtgesang im Walde (森の夜の歌)

テノール2、バス2とホルン4本の伴奏で行なわれる。1827年4月作曲された。初演は同月22日、ウィーンのムジークファエラインで行なわれている。歌詞はヨハン・ガーブリエル・ザイデル。アンダーテ・コン・モート4分の3拍子で始まり、後半アレグロ・モルト・グレイヴアーチエ、4分の4拍子。



感じあう心に  
feelin' YAMAHA

## Yamaha makes New Tradition

### カスタムトランペット

独自の組成のイエロープラスを開発し、より重く厚い、パワフルな音色を実現。  
敏捷で柔軟な表現力を探究。

株式会社 宮地商会

東京都千代田区神田小川町1丁目4番地  
電話 (255) 27511番(代)

### 3. 草野心平の詩から

作曲者多田武彦（敬称略）は、1930年生まれ。旧制大阪高等学校在学中に、一年先輩の田中信昭（東京混声合唱団指揮者）にこそわれ、合唱部にはいり、京都大学法学部に進むや、当時の京都大学男声合唱団の黄金時代をきづく立役者となった。この学生時代の合唱経験が、この人の方向を決定づけたことになる。とくに、当時知り合ったという清水脩に強い影響を受けた。

今回の組曲は、1961年に藝文蔵整プログラム・ソサイエティ男声合唱団の委嘱によって作曲された。多田武彦が、草野心平の詩に作曲したものはかなりの数にのぼる。草野心平の東洋的観念の抒情世界の幻想的絵画的展開に、心を強く引かれるらしい。初演は、今回の客演指揮畑中良輔氏によって行なわれた。

組曲の構成は以下の五曲からなる。

- I. 石家荘 II. 天 III. 金魚 IV. 雨 V. さくら散る
- （以上、東芝EMI「現代合唱曲シリーズ 多田武彦作品集ジャケット解説より抜粋）

作品解説にあたっての畑中先生の心情が初演のプログラムに掲載されていますので、先生のお許しを頂いて転載させて頂きます。

#### すぎしものへ……………

その日も、私は北支の茫漠たる平野の只中に置かれていた。その数日、私達は真野の中につめこまれ、北支から中支へと南下をつづけていたのだ。月が単調なかりかえしを空で続け、私達は無感動にそれを眺めた。平野には山もなく、音もなく、ただ無表情な土ばかりが土の光を鋭くはね返していた。この平野の中に取り残された小さな町は、死んだものようであった。土で造られたどの家もが、歌をわすれてしまったもののように冷えきって私達を迎えた。私達は銃砲を肩から降ろし、誰も何も云わず、土蔵の片隅に睡りこけた。死の町は深く沈んでゆくものようだった。

十数年前、ほくを過ぎ去ったこの風景を、ほくは完全に忘れていた。この夏、本栖湖で多田氏のこの新作の練習にとりかかり、第一曲「石家荘にて」を吾にした時、ほくの心の中に突然この風景が甦った。それは全くの唐突の激しさでほくを襲いもう二度とほくの人生に、あの兵隊の哀しい日々は繰り返さなかつた筈だったのに、多田氏のこの曲はほくに、失われた日々を感動的に喚び起こしてくれた。ほくの心の中にあるパトスの世界が、今晩のこの曲の中に充ち溢れるに違いない。それは、ほくの失われた日のための挽歌であるかもしれない。



## お食事とコーヒー 送 亭

お堀端通り

小田原市栄町 1-13-31  
TEL 23-3631

### 4. 日本の四季

今日の第四部は日本の四季を「唱歌」でまとめてみました。「唱歌」について「日本唱歌集」(岩波文庫)では、次のように定義しています。

初等・中等の学校で教科用に用いられ、日本語で歌われる、主として洋楽系の短い歌曲であり、歌詞は「特性の涵養と情操の陶冶」に資するよるような教訓的および(あるいは)美的な内容をもち、曲は欧米の民謡・讃美歌・学校唱歌および平易な芸術的声楽曲からそのままとり、それらの型によって邦人の創作した小歌曲、および少数の日本民謡やわらべうたを含む。

- I. 早春 賦 明治四十五年から大正三年にかけて出版された吉丸一昌作詞の「新作唱歌」十冊の第三集(大正2・2)に所収。
- II. 牧場の朝 昭和七年出版の「新訂尋常小学唱歌」所収。作曲者船橋英吉は、東京音楽学校教授。
- III. 夏は来ぬ 明治二十九年五月出版「新編教育唱歌集(五)」に所収。
- IV. 夏の思い出 昭和二十五年にNHKラジオ歌謡として発表され、現在中学校の音楽教材として採用されている。
- V. 赤とんぼ この曲は、「唱歌」ではない。鈴木三重吉らが「唱歌」に対して「児童性を尊重した口語脈の芸術的な歌を、民間の詩人の手づくりだそう」として始まった「童謡運動」の流れをくんで出版された「聲の実」(大正十・八)に収められたのが初めである。
- VI. 荒城の月 明治三十四年三月出版「中学唱歌」所収。
- VII. 里の秋 岩波文庫版「日本唱歌集」「日本童謡集」のどちらにも収録されていない。
- VIII. 冬の夜 明治四十五年三月出版「尋常小学唱歌(三)」に所収。
- IX. 雪のふるまを 「夏の思い出」とともに中田喜直の代表作。
- X. 箱根八里 明治三十四年三月出版「中学唱歌」所収。作者島居悦は、東京音楽学校教授。曲は滝廉太郎が東京音楽学校学生時代(21歳)の心算作。

# 草野心平の詩から

## I. 石家荘にて

茫<sup>ぼうぼう</sup>茫<sup>ぼうぼう</sup>の平野<sup>へいや</sup>くんだりて  
 サガレンの  
 潮<sup>しほ</sup>香<sup>か</sup>かぎし女<sup>おんな</sup>  
 月<sup>つき</sup>蛾<sup>が</sup>の街<sup>まち</sup>にはいり来<sup>き</sup>れり  
 白<sup>しろ</sup>き夜<sup>よ</sup>を  
 月<sup>つき</sup>蛾<sup>が</sup>歌<sup>うた</sup>わす  
 耳<sup>みみ</sup>環<sup>わ</sup>のみふるえたり  
 ああ  
 十<sup>じゅう</sup>字<sup>じ</sup>字<sup>じ</sup>愛<sup>あい</sup>憎<sup>ぞう</sup>の底<sup>そこ</sup>にして  
 石<sup>いし</sup>家<sup>か</sup>荘<sup>じょう</sup>  
 沈<sup>しず</sup>みゆくなり

## II. 天

出<sup>で</sup>膺<sup>へそ</sup>のような  
 五<sup>ご</sup>センチの富<sup>ふ</sup>士<sup>し</sup>  
 海<sup>うみ</sup>はごまでもの青<sup>あお</sup>ブ<sup>ぶ</sup>リ<sup>り</sup>キ  
 あんまりまぶしく却<sup>かえ</sup>つてくらく  
 満<sup>まん</sup>天<sup>てん</sup>に黒<sup>くろ</sup>と紫<sup>むらさ</sup>との微<sup>い</sup>塵<sup>じん</sup>がさしお  
 寒<sup>さむ</sup>波<sup>なみ</sup>の綺<sup>きら</sup>は大<sup>だい</sup>日<sup>にち</sup>輪<sup>りん</sup>めがけて迫<sup>せま</sup>り  
 シヤシヤシヤシヤ  
 音<sup>ね</sup>をたてて氷<sup>こおり</sup>の雲<sup>くも</sup>は風<sup>かぜ</sup>に流<sup>なが</sup>れる  
 人<sup>ひと</sup>間<sup>ま</sup>も見<sup>ま</sup>えない  
 鳥<sup>とり</sup>も樹<sup>まき</sup>木<sup>き</sup>も  
 出<sup>で</sup>膺<sup>へそ</sup>のような五<sup>ご</sup>センチの富<sup>ふ</sup>士<sup>し</sup>

## III. 金魚

ああみどろのなかで  
 大<sup>だい</sup>珠<sup>しゆ</sup>金<sup>ぎん</sup>はしずがにゆらめく  
 とおい地<sup>ち</sup>平<sup>へい</sup>の支<sup>し</sup>那<sup>な</sup>火<sup>か</sup>事<sup>じ</sup>のよう  
 支<sup>し</sup>那<sup>な</sup>火<sup>か</sup>事<sup>じ</sup>が消<sup>き</sup>えるように  
 深<sup>ふか</sup>いあみどろのなかに  
 沈<sup>しず</sup>んでゆく  
 合<sup>あ</sup>歡<sup>くわん</sup>木<sup>ぼく</sup>の花<sup>はな</sup>がおちる 水<sup>みづ</sup>のもに  
 その白<sup>しろ</sup>粉<sup>こな</sup>刷<sup>し</sup>毛<sup>げ</sup>に金<sup>きん</sup>魚<sup>ぎょ</sup>は浮<sup>う</sup>き上<sup>あ</sup>がり  
 口<sup>くち</sup>をつける  
 かすかに動<sup>うご</sup>く花<sup>はな</sup>  
 金<sup>きん</sup>魚<sup>ぎょ</sup>は沈<sup>しず</sup>む  
 輪<sup>りん</sup>郭<sup>かく</sup>もなく 夢<sup>ゆめ</sup>のように  
 ああみどろのなかの朱<sup>あか</sup>いほがし  
 金<sup>きん</sup>と朱<sup>あか</sup>とのほんぼり

## IV. 雨

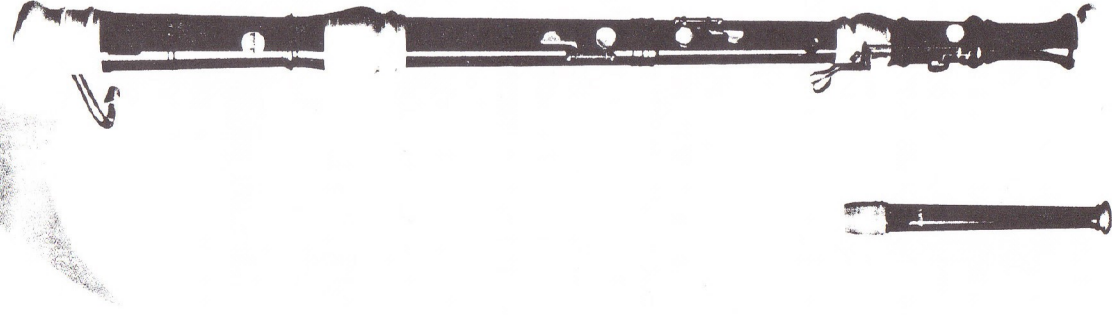
志<sup>し</sup>度<sup>ど</sup>平<sup>へい</sup>温<sup>おん</sup>泉<sup>せん</sup>第<sup>だい</sup>五<sup>ご</sup>号<sup>ごう</sup>の番<sup>ばん</sup>傘<sup>がさ</sup>に  
 音<sup>ね</sup>をたてる  
 何<sup>なに</sup>千<sup>せん</sup>メー<sup>めー</sup>トル<sup>とる</sup>の天<sup>てん</sup>の奥<sup>おく</sup>から  
 地<sup>ち</sup>上<sup>じやう</sup>すれすれの番<sup>ばん</sup>傘<sup>がさ</sup>に  
 音<sup>ね</sup>をたてる  
 林<sup>りん</sup>檣<sup>じやう</sup>烟<sup>えん</sup>にはさまれた道<sup>みち</sup>に  
 そうして墜<sup>お</sup>ちて沁<sup>しみ</sup>みる  
 點<sup>てん</sup>/點<sup>てん</sup>  
 天<sup>てん</sup>の音<sup>ね</sup>信<sup>しん</sup>  
 霧<sup>きり</sup>が生<sup>な</sup>れひるがり空<sup>そら</sup>にのぼる

## V. さくら散る

はながちる/はながちる  
 ちるちるおちるまいおちる  
 おちるまいおちる  
 光<sup>ひかり</sup>と影<sup>かげ</sup>がいりまじり  
 雪<sup>ゆき</sup>よりも/死<sup>し</sup>よりも  
 しずかにまいおちる  
 まいおちるおちるまいおちる  
 光<sup>ゆめ</sup>と夢<sup>ゆめ</sup>といりまじり  
 ガスライ<sup>かすらい</sup>ト色<sup>いろ</sup>のちらちら影<sup>かげ</sup>が  
 生<sup>な</sup>れては消<sup>き</sup>え  
 はながちる/はながちる  
 東<sup>とう</sup>洋<sup>やう</sup>の時<sup>じ</sup>間<sup>かん</sup>のなかで  
 夢<sup>ゆめ</sup>をおこし/夢<sup>ゆめ</sup>をちらし  
 はながちる/はながちる  
 はながちるちる  
 ちるちるおちるまいおちる  
 おちるまいおちる

AMUOS®

fromクライネ  
toバスアウロス。



シンフォニー No. 501S シンフォニー No. 533

アウロスが誇る超精密技術の極品。

格調高いVロッキング調の子サイン。

美者に恥える絶妙のグオイスティング。

世界一流シューヤード製の名器。

ソプラノ・アルトリコーダー全機種

**新考案・指かけ付!**

らくらく運指・くんとん上置・ころがり防止

別売価格・ソプラノ100円・アルト200円

**トヤマ楽器製造株式会社**

東京本社/〒174 東京都板橋区大原町41  
TEL 03-360-8301(代)

大阪支店/〒541 大阪府中央区北久宝寺町2-1-7  
本町和光ビル802号 TEL 06-264-7191(代)

# 1990年11月 JAMCA IN ODAWARA

—— 200名を超す男声の大合唱が、  
10年ぶりで、小田原で、聞けます。 ——

日本男声合唱協会（JAMCA）の第10回演奏会が、来年1990年11月に小田原市民会館で開催されることになりました。

日本男声合唱協会（JAMCA）の現メンバーは、「東京リーダーターフェル」「東海メールクワイアー」「広島メンネルコール」「弘前メンネルコール」「小田原男声合唱団」の5団体です。いずれも社会人を主な団員にした合唱団で、全国合唱コンクールで数度にわたり入賞を果たすなど実績を持つ合唱団です。

2年おきくらいに各地を会場にして演奏会を開き、今度で10回目になります。前回小田原で開催したのは1981年3月、福永陽一郎先生の指揮で演奏したワグナー（タンホイザー 一第3幕より）の響きが、まだ耳に残っているという人もおられるかもしれません。

今回の合同演奏では、再び福永先生の指揮で男声合唱曲の名曲清水脩「月光とピエロ」が演奏される予定になっています。

来年は、小田原市政発足50周年。記念イベントの一つとしてきつと素晴らしい演奏会になるとおもいます。ご期待ください。

## 第18回定期演奏会スタッフ

実行委員長 斎藤恵司 事務局 井上忠彦 会計 高橋 潔 渉外 斎藤恵司・日置達夫 プログラム 杉本健二・鈴木幸三  
技術 松本和夫 打ち上げ 北岡一夫 表紙デザイン 福野雅典

## 1989年度 小田原男声合唱団スタッフ

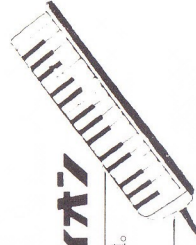
指揮者 渡辺決己 副指揮者 松本和夫・柏木秀茂 団長 日下部陽 副団長 技術部長 松本和夫 副団長 財政部長 佐藤精孝 副団長・団員部長 日置達夫 事務局長 井上忠彦 事業部長 杉本健二 渉外部長 下村興毅 備品部長 北畑道治 情報部長 鈴木幸三 監査 足利裕之・坂口宗夫

## はじめて出逢う・音楽のよろこび

その  
ための

### ススキメロディオン

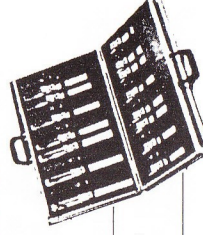
ソプラノからバスまで13機種。  
演奏性・用途に合わせた  
メロディオン。



その  
ための

### トーン・チャイム

創造するよろこびが、音楽のよろこび。  
トーン・チャイム。



株式会社 鈴木楽器製作所

〒430 浜松市須家2-25-11 TEL.<0534>61-2325代

鈴木楽器販売株式会社

神奈川(堂)：横浜市緑区すすき野2-6-6 TEL.045-901-2160

## 団員紹介(1)

### 氏名 勤務先

指 揮 渡辺 決己 ..... クラシックからポップス、ミナーまで何でも好きなお人。  
ピアノ 青木 雅也 ..... 男ばかりの団よりはキャワイイ女の子のいる方が.....。

T1 大塚 正夫 (大磯小学校).....ただ今仕事に夢中。  
吉田 晃 (吉田薬局).....今日こそ飲まずに帰ろう。毎度練習後に悩む人。  
斎藤 恵司 (緑台小学校).....体育と音楽の大好きな先生。  
福嶋 修 (富士フィルム).....歌にイレコムタイプ。  
日置 達男 (富士フィルム).....童謡風に歌うのが得意。  
加藤 兀 (西浜高校).....男だけでは飲まない人。  
西山 広木代 (日産車体).....時々休むが歌は好き。  
中島 弘光 (和泉短大).....スポーツなんでもござれのトップの専門家。  
加藤 和義 (秦野本町小学校).....結婚ホヤホヤで忙がしい。休団中。  
北岡 一夫 (旭化成マイクログロシステムズ).....女好き、それとも男好き？ オダダン期待の top  
長谷川 幸雄 (神奈川県企業庁箱根営業所).....神奈フィルから箱根へ移動。おかげで復帰。

T2 青野 正純 (富士フィルム).....最近バリトンを歌いたがる。.....  
石橋 泰三 (二宮町教育委員会).....長〜休団。そろそろ来て下さい。  
福井 靖史 (大磯小学校).....今年はますます輝くセカンドをめざしてハリキッテいる。  
藤本 慎治 (インターナショナル整流器).....ソフトボールに呼ばれて時々休む。  
北畠 道治 (関西ペイント).....セカンドの紳士としてユニフォームの係。  
鈴木 幸三 (相洋中学校).....オダダンニュースとプログラム担当。  
井筒 稔 (食品薬品安全センター).....酒の安全検査も願います。  
小野 豊 (メガート印刷).....プログラムの印刷はいいから歌いに来て！休団中。  
鈴木 昌弘 (仙石原中学校)....."多忙" な独身。  
佐藤 精孝 (関西ペイント).....歌好き。週末のスケジュールは歌でいっぱい。  
青野 幸夫 (茨沢小学校).....相変わらず"若い" ねー。  
坪井 孝士 (富士フィルム).....やつともどつて来たら、6月から転勤。  
杉本 健二 (小田原市役所).....特別指令。市長をオダダンに入れよ。  
高橋 潔 (平塚市役所).....酒とヨットにおぼれるが海ではおぼれない。  
平山 諭 (麻溝台中学校).....小田男で一番ウエイトがある。酒を飲まずメンバーの配達をする。  
馬場 和男 (第一生命).....10年ぶりにもどつて来た。  
佐々木 純 (富士フィルム).....スキューバダイビングがオダダンガ。

**もうすぐ20年、  
がんばって下さい。**

**エスエス製薬株式会社  
三 共 株 式 会 社  
東京田辺製薬株式会社**

## 団員紹介(2)

- B1
- 足利裕之 (小嵐中学校)……………●ついに“第9”を50回歌った。  
 柏木秀茂 (寄中学校)……………●歌も、仕事も明るい校長先生。  
 下村興毅 (下村商店)……………●とにかく顔を出す。来ると宴会のあと仕末をする。  
 松本和夫 (松田中学校)……………●指揮をしてもつい歌ってしまう。  
 小沢一 (昭和音大)……………●“よっ/久しぶり”。とそろそろ来ませんか？休団中  
 氏家慶明 (松田小学校)……………●若葉マークの軽自動車で走りまわっている。  
 二宮治二 (大磯町議員)……………●町が忙しいみたい。休団中。  
 中島広志 (医師)……………●医業も山も歌もみんな趣味の優雅な生活。  
 奥津光隆 (熱海市役所)……………●3年ぶり復帰。心をこめて歌う人。  
 廣田守邦 (マイコトキシン検査協会)……………●今回の合宿は酒を飲まずジュースですぞした。  
 鉦鹿明弘 (富士フィルム)……………●自宅が小平なのでついワセダグリーにいつてしまう。  
 伊東清邦 (山王小学校)……………●学校の仕事が忙がしい。休団中。  
 古沢憲 (西湘高校)……………●早くム手打ち直してパルトンの中心でうたうて下さい。休団中。  
 山崎幸興 (橋中学校)……………●オダダン教職組合専従でなく本物の。休団中。  
 小林隆一 (富士フィルム)……………●自称“コパリユウ”。今やパルトンの顔。  
 田中吉春 (食品薬品安全センター)……………●筑波から単身。忙しいみたい。休団中。  
 国吉厚 (ギター音楽院)……………●ギターの専門家になるため勉強中。休団中。
- B2
- 井上忠彦 (井上楽器)……………●御存知、割りばしの指揮魔。  
 坂口宗夫 (富士フィルム)……………●練習はともかく、定演は第1回より皆勤。  
 渡辺誠之 (橋中学校)……………●いかにもベースの英語の先生。  
 下沢孝 (富士フィルム)……………●低音ばかりでなく、メロディーもこなす。が、休団中。  
 日下部陽 (医師)……………●最近女性ドライバーの本を出版。点数をかせいでいる。  
 中山博之 (関西ペイント)……………●旅するとお酒の心配をする人。  
 江藤凱夫 (富士ゼロックス)……………●どこにいつてもてる。テニスマン。  
 秋野三郎 (国府小学校)……………●じっくりと歌える時が来るまで待っている。休団中。  
 福野雅典 (二宮中学校)……………●来たときは、ウーハーはおまかせ。  
 高橋秀人 (工芸指導所)……………●山から名前が変わって高くなつた。休団中。  
 桑原敏雄 (東名厚木病院)……………●この人が来ると下の音はおまかせ。休団中。  
 湯川裕光 (滝沢工務店)……………●公私ともども忙しくしたがる人。  
 矢島隆司 (久野小学校)……………●頼りになるベースだがオクサマのために休みが多い。  
 赤川軍一 (第一生命)……………●赤軍ではありません。

### 協力 秦野男声合唱団

T1 杵中 勉 ・ T1 加藤 重喜 ・ B2 遠藤 俊一 ・ B2 石川 勇

**サール薬品株式会社**  
**日本ベレーリンガー**  
**インゲルハイム株式会社**  
**日本シエーリング株式会社**  
**神弘薬品株式会社**

**「ガンパル**  
**オダダン!!」**  
**期待しています。**

## 1988～1990 小田男カレンダー (予定含む)

年月日	曜	演奏会名等	会場	指揮
88.10.16	日	第23回小田原市民合唱祭	小田原市民会館	渡辺 決己
88.11.19	土	ブラームス「ドイツレクイエム」	小田原市民会館	黒岩 英臣
88.12.14	日	神奈川合唱フェスティバル	横浜西公会堂	渡辺 決己
89.3.11	土	城と緑と海の西湘音楽フェスティバル	小田原市民会館	田中 一嘉
89.6.4	日	第38回 湘南合唱祭	茅ヶ崎市民会館	渡辺 決己
89.6.24	土	定演強化練習第一日	寄中学校	
89.6.25	日	定演強化練習第二日	松田町民文化センター	
89.7.16	日	第18回 定期演奏会	小田原市民会館	畑 中良輔 渡辺 決己
89.10.8	日	第24回 小田原市民合唱祭	小田原市民会館	渡辺 決己
89.11.19	日	和音会「秋のコンサート」	湯河原中学校体育館	松尾 葉子
89.12.9	土	合唱合同演奏会	小田原市民会館	渡辺 決己 佐々木 修
90.7.14	土	第19回 定期演奏会	小田原市民会館	福永陽一郎 渡辺 決己
90.11.18	日	第10回 JAMCA 小田原	小田原市民会館	福永陽一郎 渡辺 決己

## 1988～1989 演奏曲目

作曲者	曲 目	作曲者	曲 目
ドイツ民謡	Treue Liebe	ベートーヴェン	「フィデルリオ」より囚人の合唱
スコットランド民謡	Loch Lomond	グ ノ ー	「ファウスト」より兵士の合唱
アイルランド民謡	Londonderry Air (1988.10.16 小田原市民合唱祭)	ウエーバー	「魔弾の射手」より狩人の合唱
ブラームス	ドイツレクイエム (1988.11.19 ドイツレクイエム演奏会)	ベートーヴェン	「交響曲第九番」第4楽章 (1989.3.11 西湘音楽フェスティバル)
多田 武彦	柳河	トステイ	L'ultima Canzone
山田 耕 作	この道		Sogno
山田 耕 作	からたちの花		La Serenata (1989.6.4 湘南合唱祭 茅ヶ崎)
山田 耕 作	あわて床屋 (1988.12.4 神奈川県芸術祭)		第18回 定期演奏会曲目
モーツァルト	「魔笛」より 僧侶の合唱		

# アポロピア

東洋ピアノ製造株式会社



## 井上楽器

小田原お堀端通り  
TEL.24-0515